

世界での社会啓発活動 — 国連での取り組み —

希少疾患領域における社会啓発活動は、
100カ国以上で取り組まれており、世界中で着実に広がっています

「希少疾患領域のSDGsターゲット（～2030年）」



SDGsとは 持続可能な開発目標 (SDGs) とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。

国連での取り組み

2016年11月 国連内に希少疾患領域のNGO (NGO Committee for Rare Diseases) 発足
2019年2月 国連でRDD初開催
日本を含む13カ国が共同ホストとなり実現



2019年9月23日 国連総会にて Universal Health Coverage (UHC) 政治宣言採択

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)とは すべての人々が基礎的な保健医療サービスを、必要なときに、負担可能な費用で享受できる状態のことをいいます。
2017年12月12日をユニバーサル・ヘルス・カバレッジ国際デーと国連が宣言しました。

UHC宣言内に "**Rare disease**" という言葉が**初掲載**される

34 Also strengthen efforts to address eye health conditions and oral health, as well as **rare diseases** and neglected tropical diseases, as part of universal health coverage;

2021年12月16日 国連総会にて、
"希少疾患領域の患者当事者・家族の課題への対応"
("Addressing the Challenges of Persons Living with a Rare Disease and their Families")
に関する決議が、国連加盟国(193カ国)満場一致で採択される

日本を含め、世界中で実施されてきたさまざまな草の根型の活動が実を結び、
国連決議にまでつながりました。

決議を受け、国連加盟国は希少疾患領域に対して行動を起こしていきます。

RDD JAPANは今後も世界のRAREコミュニティと一緒に歩み、国内で社会啓発活動を進めます。